

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

2014年度事業報告

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2014年度の経過

2014年度の本協会の事業として、まず第29回リハ工学カンファレンスを8月26日から28日まで広島国際大学呉キャンパスにおいて開催し、合計264名の参加者が活発な発表とディスカッションを展開しました。福祉機器コンテストは7月に1次選考会、8月に2次選考会を開催し、機器部門3件、学生部門3件の受賞作を選考しました。受賞作は10月に東京ビッグサイトで開催された国際福祉機器展（H.C.R.）において本協会のブースに展示し、同会場で表彰式を行いました。さらに受賞作は西日本福祉機器展（北九州市）、バリアフリー2015（大阪市）において展示し、多くの関係者の注目を集めました。

協会誌は29号3巻から30号2巻まで4回発行し、「人工ボディ」や「障害者差別」など多岐にわたる特集を組み、内容の充実を図っています。

分科会・専門委員会関連事業では、本協会の法人化にともなう財務面から10SIGをすべて協会内の組織にすることが難しいため、まず4SIGについて法人内SIGに移行する手続きを進めているところです。また、5月30日と31日には仙台で第3回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会を開催し、71名の参加者を集めました。広報活動としてはH.C.R. 2014、バリアフリー2015、西日本国際福祉機器展などにおいてブースを設け、本協会の活動をPRすると共に、主催者の主催するイベントに協力いたしました。

国際関連事業では相良副会長が中心となり、8月に開催が予定されているアジアリハ工学連携会議（CRE ATe Asia）の設立と加盟に向けて、アジア各国のリハ工学関係者との協議を進めてきました。本協会としても徳島アグリーメントの見直しと拡大を視野に入れてこの会議に加盟し、2年後に日本で開催が予定されている国際会議の開催を目指しているところです。

このように今年度も多方面にわたる事業を展開していることや消費税の増税等によって財政面では厳しい局面を迎えていますが、事業は縮小せずに、できるだけ出費を抑える努力を続けてきた結果、大きな赤字を出さずにすみました。今後も本協会を継続および発展させるため、引き続き会員の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

会長 繁成 剛

1. 社員・会員

1-1. 法人社員・会員

2014年7月1日 正会員 857名（うち社員（代議員）94名）、学生会員 6名、
賛助会員数 25社（75口）

2015年6月30日 正会員 823名（うち社員（代議員）95名）、学生会員 10名、
賛助会員数 21社（63口）

2. 事業

本協会の主たる事業は、リハ工学カンファレンスの開催、福祉機器コンテストの実施、協会誌の発行、SIG活動及び委員会活動である。以下に、各事業の2014年度の活動を報告する。

2-1. リハ工学カンファレンス関連（担当理事：剣持悟・山形茂生）

1) 第29回リハ工学カンファレンス（ひろしま）の開催

テーマを「Made in hiroshima・・・ひろしまからの発信」と題して2014年（平成26年）8月24日（日）広島国際大学 東広島キャンパス（広島県東広島市）、25日（月）～27日（水）広島国際大学 呉キャンパス（広島県呉市）において秋山實利氏（広島国際大学学長）を大会長として開催した。会員・協賛団体、障害当事者、学生、リハ工学技術者及び研究者、医療専門職、社会福祉・教育・企業関係者が参加した。

当カンファレンスへの参加者数は264名（内、有料参加者228名、次ページ表参照）であった。

参加種別	協会員 協賛団体	非協会員	学生	当事者 発表者	合計
第 28 回（広島）	151 名	62 名	14 名	1 名	264 名

- ・研究発表等
 - ・口頭発表：15 セッション、76 演題（うち、英語セッション 4 演題）
 - ・インタラクティブセッション：23 演題（うち、学生セッション 3 演題）
 - ・イブニングセッション（1 日目～2 日目）
 - ・交流セッション（3 日目）
- ・特別プログラム（公開講座）
 - 「わが国における福祉用具の流通・供給のしくみ 法制度システムの現状と将来」
講演者：黒田大治郎氏（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部）
- ・企業展示
 - リハビリテーション工学関連企業 12 社、4 団体による開発商品展示、および研究開発の紹介を行った。また、広島国際大学リハビリテーション支援学科のブースを設置し、学科の取り組み等の紹介をした。
- ・交流会
 - カンファレンス 2 日目、イブニングセッション終了後に交流会が開催された。関係者の挨拶の後、多くの参加者同士の交流が行われた。会場では、広島の地酒の試飲や SIG 紹介が行われ、盛況であった。
- ・福祉機器コンテスト 2014
 - 最終選考会ならびに一次選考通過作品の展示が行われた。

2) 第 30 回リハ工学カンファレンス in おきなわの開催に向けての準備

- ・会期：2015 年 11 月 13 日（金）～15 日（日）
- ・会場：沖縄県総合福祉センター（沖縄県那覇市）
- ・大会テーマ：技のちゃんぷるー 御万人（うまんちゅ）を支えるテクノロジー
- ・大会長：瀧下修一（沖縄リハビリテーション福祉学院 学院長）
- ・実行委員長：金城知子（沖縄リハビリテーション福祉学院 作業療法学科長）
- ・沖縄を訪問し、実行委員長の金城知子氏と沖縄県障害福祉課、沖縄観光コンベンションビューローを訪問し、ご挨拶と引継ぎを行った（2015 年 2 月 19 日（木）～21 日（土））。
- ・大会ホームページが開設され、演題募集も開始された。英語版 HP も完成した。

3) 今後のカンファレンスへの取り組み

第 31 回リハ工学カンファレンス開催候補地への打診を行い、現地担当者との日程、開催場所等について調整をした。

2-2. 福祉機器コンテスト関連（担当理事：元田英一）

1) 福祉機器コンテスト 2014 の執行状況

- ・第一次選考会：2014 年 7 月 5 日（土） 応募作品の書類・ビデオ審査（於：横浜市総合リハビリテーションセンター）
- ・第二次選考会：2014 年 8 月 26 日（火） 機器開発部門：プレゼンテーション審査、学生部門：書類・ビデオ審査（於：リハ工学カンファレンス会場（広島国際大学呉キャンパス）
- ・応募件数 全 45 件（機器開発部門 28 件うち 3 作品を選考、
学生部門 17 件うち 3 作品を選考）。
- ・受賞件数 機器開発部門：最優秀賞 1 件、優秀賞 2 件 学生部門：最優秀賞 1 件、優秀賞 2 件
- ・発表、表彰：第 41 回国際福祉機器展 H.C.R. 2014 会場内 10 月 3 日（金）
- ・展示、広報
 - ・第 41 回国際福祉機器展（H.C.R. 2014）（東京） 10 月 1 日（水）～3 日（金）（表彰式／受賞作品の実物展示）

- ・第16回西日本国際福祉機器展（P.P.C.2014）（北九州市）11月7日（金）～9日（日）
（受賞作品の実物展示）
- ・福祉機器コンテスト結果報告書を作成し関係団体に配布した。
- ・リハビリテーション工学 Vol.130, No.1 に結果報告書と協賛企業広告を掲載した。

2) 福祉機器コンテスト2015の準備及び実施

- ・特別協賛：フランスベッド株式会社
- ・協 賛：株式会社 ケープ、株式会社 松本義肢製作所、東名ブレース株式会社、株式会社 今仙技術研究所、株式会社 モリトー、川村義肢株式会社、株式会社有菌製作所、日陶科学株式会社
- ・後 援：厚生労働省、経済産業省、公益財団法人テクノエイド協会、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人日本作業療法士協会
- ・2015年度コンテスト事務局となる有限会社車座との業務委託契約を結んだ。
- ・福祉機器コンテスト2015選考委員会の設置（2015年4月1日）
- ・募集対象：機器開発部門、学生部門
- ・広報開始、応募要綱配布：2015年4月16日（木）
- ・募集期間：機器開発部門：2015年5月7日（木）～6月8日（月）
学生部門：2015年5月7日（木）～7月6日（月）
- ・展示および広報
 - ・バリアフリー2015（大阪）2014年度の優秀作品の展示と2015年度コンテストの広報（2015年4月16日（木）～18日（土））
 - ・ウェルフェア2015（名古屋）2014年度の優秀作品の展示と2015年度コンテストの広報（2015年5月21日（木）～23日（金））

2-3. 協会誌関連（担当理事：高原光恵）

1) 協会誌発刊：以下の4号（各1000部印刷）を発刊した。

- ・vol. 29 No. 3 2014/8 特集「人工ボディ」
- ・vol. 29 No. 4 2014/11 特集「障害者差別—知る・向き合う・取り払う—」
- ・vol. 30 No. 1 2015/2 特集「30巻記念号 これ（今日）までの30年」
- ・vol. 30 No. 2 2015/5 特集「30巻記念号 これ（明日）からの30年」

2) 編集委員会の開催

協会誌発行にあわせ4回開催したほか、随時、メーリングリストにて編集状況の報告相談等行った。

3) 投稿論文（査読依頼）

- ・2014年度は、投稿6件（研究論文1件、研究報告3件、技術報告2件）あった。また、2014年度に掲載された論文数は、Vol. 29 No. 4 に3件（研究論文1件、研究報告1件、技術報告1件）、Vol. 30 No. 1 に1件（ショートペーパー1件）であった。

4) その他

- ・機関リポジトリ掲載チェックリストの確定を行った。
- ・新規編集委員を募り、決定した。

2-4. 分科会・専門委員会（担当理事：岩崎満男）

1) SIG活動

- ・SIGとの協力関係の推進及び活動支援
2014年8月25日（月）リハ工学カンファレンス期間中にSIG・支部代表者会議を開催し、各SIG・支部の2014年度事業計画、SIGのあり方、支部の地域区割り、各規定の整備について説明し、各代表からの意見収集を行った。

- ・分科会活動としての各 SIG の位置づけを明確化するための取組みとして、連結決算とする法人内部の SIG についての条件整備を行った。
- ・SIG 助成金支給規定に基づき、SIG 助成金を支給した。
- ・第 16 回西日本国際福祉機器展 (P.P.C. 2014) (2014 年 11 月 7 日 (金) ～9 日 (日)) に、各 SIG に協力を要請した。
- ・バリアフリー2015 (2015 年 4 月 16 日 (木) ～18 日 (土)) 於：インテックス大阪 (大阪)) に、各 SIG に協力を要請し、リハ工学協会のブース出展に伴い、ブース内のチラシ配布措置を講じた。
- ・2015 年 11 月のリハ工カンファレンス in おきなわ (2015 年 11 月開催予定) における各 SIG 基礎セミナー開催の打診と、要望等のアンケートを行い。その結果を実行委員会へ連絡した。
- ・協会誌 30-1 および 30-2 での 30 年記念誌に、各 SIG および各支部への寄稿を要請した。

2014年度活動報告

※会員数(協会員数)は2014年7月1日現在。

SIG 姿勢保持	http://www.resja.or.jp/posi-sig/	会員数：288名 (53名)
代表者：繁成 剛(東洋大学) 事務局長：児玉真一(横浜市総合リハビリテーションセンター) ・講習会開催：2015年6月27・28日 東洋大学 朝霞キャンパス (埼玉県) ・書籍 (小児から高齢者までの姿勢保持・第2版) や資料集PDF版の販売		
車いすSIG	http://www.resja.or.jp/wc-sig/	会員数：162名 (79名)
代表者：松尾清美(佐賀大学) 事務局長：深野栄子 ・講習会開催：2014年8月22・23日 RCC文化センター (広島市) ・講習会開催：2015年1月24日・25日 社会福祉法人農協共済 別府リハビリテーションセンター (別府市) ・WEBサイト運営、テキスト発行(年2回)、分科会(BOG)活動、東日本大震災復興支援、協会事業への協力 他		
自助具SIG		会員数：9名 (9名)
代表者：岡田英志 (ヒューマン) 事務局長：岡田英志 (ヒューマン) ・自助具SIG組織の立て直しと活動方針の再構築 ・SIG会員名簿の再作成と連絡網の整備 ・活動広報の活性化を図るためのホームページを製作する		
乗り物SIG	http://ameblo.jp/sunrisejp007/	会員数：7名 (4名)
代表者：岩崎満男 (有限会社岩崎) 事務局長：松尾清美(佐賀大学) ・講習会共催：2015年第3回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 (仙台市) ・協賛：2014年10月 神奈川リハの移動機器フェスティバルへの参加		
SIG 褥そう防止装置	http://www.resja.or.jp/sig-pmps/	会員数：20名 (20名)
代表者：新妻淳子(国立リハセンター研究所) 事務局長：河合俊宏(埼玉県総合リハビリテーションセンター) ・選挙、運営方法変更に伴う規約改正 ・ISO16840対応 ・WEBサイト運営		
コミュニケーションSIG	http://www.resja.or.jp/com-sig/	会員数：67名 (20名)
代表者：渡辺崇史 (日本福祉大学) 事務局長：上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター) ・WEBサイト運営 ・日本難病看護学会セミナー講師、スタッフ派遣 ・愛知県筋ジストロフィー協会主催スイッチ講習会講師派遣、工具貸出 ・第3回東日本大震災復興支援等協会事業への協力		
SIG 住まいづくり	http://www.resja.or.jp/sumai-sig/	会員数：107名 (60名)
代表者：橋本美芽 (首都大学東京) 事務局長：鈴木基恵(横浜市総合リハビリテーションセンター) ・SIG会員名簿の再作成と連絡網の整備により組織の活性化を図る ・H25年度会員向けアンケート結果に基づく今後のSIG活動の検討 ・東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会への協力と講師派遣		
特別支援教育SIG		会員数：5名 (5名)
代表者：松田靖史 (川村義肢株式会社) 事務局長：高原光恵(鳴門教育大学) ・各種講習会企画への協力相談 (講師派遣、運営協力等) および情報交換 ・教育・保育等関係者へのニーズ調査		
移乗機器SIG	http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfer/index.html	会員数：118名 (21名)
代表者：古田恒輔 (神戸学院大学) 事務局長：青木久美子 (宇部記念病院訪問リハビリテーション) ・移乗機器SIG講習会 in 山口 2014年12月13～14日 (山口コ・メディカル学院) 「スライディングシートとボード」を用いた移乗と起居関連動作について～理論と実際～ ・リフトフェア共催 2014年8月8～9日 リフトインストラクター フォローアップ研修 「上級編 移乗と姿勢」 (小田急第一生命ビル 19F) ・役員会の開催		
義肢装具SIG	http://www.resja.or.jp/po-sig/	会員数：174名 (50名)
代表者：水澤二郎 (一般財団法人 啓成会 啓成会高等職業技術専門学校) 事務局長：砂野義信 ・講習会開催：2014年8月23日 義肢装具SIG第10回講習会 広島国際大学 呉キャンパス (呉市) ・東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会への協力と講師派遣 ・WEBサイト運営		

(注) 各 SIG から表記以外多数の活動報告を受けましたが、紙面の都合上割愛させて頂いたことをご了承下さい。詳しくは各 SIG のホームページ等をご覧ください。

2) 支部活動

- ・2015年4月19日 (日) 一般社団法人日本福祉用具評価センター (JASPEC) にて関西支部、車いすSIG による合同勉強会『車いすトーーーク』を開催した。参加者は研究者や学生、車いす使用者等の21

名（＋介助者）、講師及びスタッフ13名により実施した。勉強会形式であったため、様々な視点から車いすを楽しく知る良い機会となった。リハ工学協会のブース出展に伴い、ブース内のチラシ配布措置を講じた。

- ・九州・沖縄・山口支部に対して、ブーススタッフとしての応援依頼を行った。また、セミナー開催等の企画を要請した。
- ・支部専用のメーリングリストを立ち上げ（SHIBU-ML）て、2014年6月より運用開始した。

3) 東日本大震災復興支援に関する専門委員会

2015年5月30日（土）～31日（日）仙台市戦災復興記念館にて第3回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 宮城を開催した。協力SIGは、コミュニケーションSIG、SIG姿勢保持、車いすSIG、特別支援教育SIG、SIG住まいづくり、移乗機器SIG、義肢装具SIG、乗り物SIG、SIG褥そう防止装置であった。各SIGから講師を派遣していただき、71名の受講者であった。

2-5. 企画推進事業（企画担当理事：宮野秀樹・剣持悟／事業統括理事：金井 謙介）

協会の広報活動および会員獲得に向けたPR活動、公益活動のために以下の展示会出展および出展社セミナー等の開催を行った。

1) 学会展示会、広報活動強化

以下の展示会へブースを設定し、広報活動を実施した。

- ・第41回国際福祉機器展(H.C.R.2014) (2014年10月1日（水）～10月3日（金） 於：東京ビッグサイト（東京））にてブース出展をおこなった。
- ・第16回西日本国際福祉機器展(P.P.C.2014) (2014年11月7日（金）～9日（日） 於：西日本総合展示場新館）九州・沖縄・山口支部の協力の上実施。
- ・バリアフリー2015 (2015年4月16日（木）～18日（土） 於：インテックス大阪（大阪）)

2) セミナー開催

以下のセミナーを開催した。

- ・第41回国際福祉機器展(H.C.R.2014) (東京)において、「福祉機器の公的支給制度～正しい理解と効果的利用のすすめ」(講師：黒田大治郎氏、10月3日（金）)を開催した。
また、新しい試みとして、車いすトレーニングイベント「子ども広場でひろげよう」を開催し、出展企業8社、スタッフ16名、受講者6名の参加を得た(10月3日（金）)。
- ・第16回西日本国際福祉機器展(P.P.C.2014) (北九州)において、九州・沖縄・山口支部の協力を得て、連日複数回のセミナーを企画・開催した(2014年11月7日（金）～9日（日）)。
- ・バリアフリー2015において、「福祉機器等の利用と公的支給制度：その正しい理解と効用の進め」(講師：黒田大治郎氏、4月17日（金）)と題した出展社ワークショップを企画・開催した。
- ・難病看護学会とのコラボレーションセミナーを企画・開催した(2014年8月28日（木）広島国際大学)。

3) 第3回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 宮城開催

- ・2015年5月30日（土）～31日（日）仙台市戦災復興記念館にて第3回復興支援講習会 in 宮城を開催した。

4) その他

- ・関係者のための車椅子取り扱い講習会を開催した(2014年9月20日（土）～21日（日）中部国際空港)。同講習会は、第7回日本身体障害者補助犬学会 学術大会において航空会社職員向けに実施し、112名の参加者があった。国土交通省の方々も参加され、今後他の空港でも進めていく方向が示された。
- ・航空関係者のための車椅子取り扱い講習会を開催した(2015年2月10日（火）羽田空港第一ターミナルANA講堂)。全国から国内ほぼ全ての航空会社から職員が参加したため、200名の参加者となった。
- ・全国頸髄損傷者連絡会との第4回合同シンポジウム「一緒にやろうや！住」を開催し、105名の参

加者を得た（2015年3月21日（土）川村義肢株式会社本社大ホール）。

- ・リハ工学カンファレンス in おきなわのプレセミナーとして「リハビリテーション工学を活用し生活セミナー」を企画・開催した（2015年2月21日（土）に那覇市総合福祉センター2階大会室）。同セミナーは、NPO 法人沖縄県脊髄損傷者協会と共催とし、75名の参加者を得た。

2-6. 国際関連の事業（担当理事：畠中規・古井透）

- ・7月にパリで行われた ICCHP（障害者への教育分野のコンピュータ利用に関する国際会議）の Dr. Klaus. Miesenberger 議長へ、リハ工学カンファレンスの情報提供をおこなった。
- ・8月のリハ工学カンファレンスにて、英語セッションの企画運営をカンファレンス実行委員会の協力をうけて実施した。海外関連団体へ発表演題の応募を行った。沖縄カンファレンスでも同様のセッションを予定している。
- ・8月に i-CREATE 事務局が主導して i-CREATE2014 に併催する形で行われたアジアリハ工学連携会議（仮称）がシンガポールで行われ、相良副会長が参加した。
同会議は11月に韓国で RESKO カンファレンスの一環として行われ、横浜リハ上野氏・国リハ中村氏に依頼し、オブザーバーとして出席した。カンファレンスでは、横浜リハ・上野氏に依頼し、次回リハ工学カンファレンス（沖縄）の周知を行った。
- ・RESKO の Moon 理事が2月に来日した際に国際協力や沖縄カンファレンスでの国際セミナー開催についての意見交換を行った。
- ・RESNA の Van Hook 広報担当より、3月にシンガポールに開催される RESNA Asia Pasific Conference について当協会の HP にて広報依頼があり対応。当協会のカンファレンスについても RESNA の HP にて広報依頼し掲載された。
- ・協会英語 HP の情報を更新した。
- ・4月のアジアリハ工学連携会議（仮称）上海へ相良副会長を派遣し、当協会の参加条件を報告した。次回8月の i-CREATE2015 で正式に発足する予定で、当協会も参加する方向で調整する。（予定）RESKO（韓国リハ工学協会）、TREATS（台湾リハ工学協会）と MOA（相互協定）の締結に向けて、両国より提出された原案の検討を行った。

3. 総務

3-1. 会則・選挙（担当理事：鈴木聖貴）

1) 代議員選挙、役員候補者選挙

- ・代議員、役員任期満了にともない、代議員選挙、役員候補者選挙を行った。

2) 規定の整備

- ・SIG 規程の改正を行った。
- ・役員選挙廃止にともない、理事会規則・役員候補者選出規則の改正を行った。

3-2. 財務（担当理事：沖川悦三）

1) 公益法人化を目標とした財務管理・諸表の整備

- ・公益法人化を目標とした財務管理・諸表の整備を実施した。
- ・年度をまたぐカンファレンス事業とコンテスト事業をそれぞれ年度別に計上する連結決算を実施しているが、導入後間もないことと複雑さもあるため、問題点を整理し、各事業の月次会計報告を提出してもらう等の更なる整備を行った。

2) 新年度予算（案）作成の事務業務を実施した。

3-3. 総会・理事会等会議開催（担当理事：水澤二郎）

総会、理事会について下記の通り行った。

1) 2014 年度定時社員総会の開催

- ・日時：2014年8月26日（火） 11:50~12:55
- ・場所：広島国際大学呉キャンパス 7階メディアホール（第29回リハ工学カンファレンス会場）

2) 2014 年度臨時社員総会の開催

- ・日時：2014 年 10 月 3 日（金） 18：00 ～ 18：33
- ・場所：東京ビッグサイト 会議棟 103 会議室

3) 2014 年度第 1 回（通算第 23 回）～第 7 回（通算第 29 回）（法人）理事会の開催

7 月 13 日、8 月 26 日（第 29 回リハ工学カンファレンス（広島）会期中）、11 月 30 日、1 月 11 日、3 月 15 日、6 月 14 日に開催した。この他、電磁的手段（メール）による第 2 回（通算第 24 回）理事会を開催した（7 月 18 日～23 日）。

3-4. 広報・渉外（担当理事：塚田敦史）

- 1) 法人化された当今の協会の活動内容が把握しやすくすることを目的にリーフレット改訂の検討を行い、2015 年度初めの配布を目処に進めた。
- 2) 海外向けアニュアルレポートについて検討した。翻訳費用などの課題が多く、協会全体の運営経費の体制を考慮すると実施が難しい状況となり、実施可否も含めて再検討が必要となった。
- 3) 外部団体から新規後援・協賛依頼、当協会へ名義借用依頼や研究費用募集、採用情報の会員周知要請（依頼）などについて、該当する団体と手続き等の調整を図った。詳細は次ページを参照。

4. 事務局（担当理事：沖川悦三）

1) 事務局運営

法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進めた。

2) ホームページの運営管理

会員サービスの一環とし、今まで以上のホームページ掲載内容の充実を図り、迅速に情報を掲載した。

3) メールニュースの配信

メールニュースを 27 通配信し、会員に情報提供を行った。

4) 後援・協賛事業（主催団体と内容）

次ページを参照

2014 年度は以下の事業の後援・協賛を行った。

No.		団体名	開催日程	内容
1	後援	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団	2014/7/11 ～12	ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 2014
2	後援	広島国際大学	2014/7/13	2014年度広島国際大学健康フェア
3	後援	バイオフィリア リハビリテーション学会	2014/8/23 ～24	第18回バイオフィリアリハビリテーション学会大会
4	後援	特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター	2014/9～ 2015/3/31	ウェルフェアデザインコンテスト
5	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会	2014/9/9～ 12	ヒューマンインタフェースシンポジウム2014
6	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2014/9/17 ～19	ライフエンジニアリング部門シンポジウム2014 (LE2014)
7	後援	日本身体障害者補助犬学会	2014/9/20 ～21	日本身体障害者補助犬学会第7 回学術大会

8	後援	一般社団法人ナンフェス	2014/9/23	ウォーク&ランフェスタ2014
9	協賛	社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団	2014/10/25	かなりは リハ工学・福祉機器フェスティバル2014
10	協賛	西日本国際福祉機器展実行委員会	2014/11/7 ～9	P. P. C. 2014第16回西日本国際福祉機器展
11	協賛	バイオメカニズム学会	2014/11/8 ～9	第35回バイオメカニズム学術講演会
12	後援	東京都南多摩保健医療圏地域リハビリテーション支援センター	2014/11/15 ～16	平成26年度福祉用具講習会『南多摩福祉機器展』
13	後援	社会福祉法人創世福祉事業団創世テクノエイドセンター	2014/11/24	第1回福島県車椅子・車椅子関連機器展示相談会
14	後援	川村義肢株式会社・社会福祉法人日本介助犬協会・大東市総合文化センター	2014/12/7	介助犬のひろばin大東
15	協賛	感覚代行研究会	2014/12/8 ～9	第40回(2014年)感覚代行シンポジウム
16	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2014/12/14 ～17	第15回SICEシステムインテグレーション部門講演会
17	協力	日本身体障害者補助犬学会	2015/2/10	空港関係者向け車椅子取り扱いセミナー
18	後援	日本チェアスキー協会	2015/2/26 ～3/1	第36回日本チェアスキー大会 -みんなのすきーきょうしつ-
19	後援	国立障害者リハビリテーションセンター	2015/3/7	支援機器利活用拡大シンポジウム 情報基盤構築で進めるイノベーション創出
20	協賛	特定非営利活動法人モバイル学会	2015/3/12 ～13	シンポジウム「モバイル`15」
21	後援	第50回日本理学療法学会	2015/6/5～ 7	公益社団法人日本理学療法士協会
22	後援	一般社団法人日本作業療法士協会	2015/6/19 ～21	第49回日本作業療法学会

(下線は新規)